

地理歴史科（日本史B）学習指導案

指導者

- 1 履修単位数 3単位
- 2 実施日時 令和 年 月 日（ ） 第 時限
- 3 学級 2年 組（ 名）・2年 組（ 名）
- 4 使用教科書 『詳説日本史B』（山川出版社）
- 5 単元名 歴史の扉を開けよう
- 6 単元設定の理由

<生徒観>

本学級は文系クラスの日本史B選択者の学級である。今年度4月に行った授業に関するアンケートでは「歴史科目への関心度が高い」と答えた生徒は9割を超えている。一方で「史資料の読み取りが好き（得意）か」、「地理的な視点で歴史を見たり考えたりすることを意識しているか」は肯定的意見が約5割とやや消極的な結果となっている。そこで、身近なモノの歴史を題材にすることで、資料の収集方法や資料によって生じる解釈の差異等を体験的に学ばせ、歴史をはじめ学問に対する探究心や情報収集・活用力、思考・表現・判断力を養い、さらにそれらの歴史学習で習得した知識や思考力を、現代の諸課題につなげて考察しようとする力を身に付けさせたい。また、地理的視点を含む多様な資料を提示し、読み解くことの面白さを実感させるとともに、社会を時間軸と空間軸から多面的・多角的に捉える理解へと導きたい。

<教材観>

本単元では、どのような資料を活用するかが生徒の関心や探究活動の進展に大きく影響する。生徒にとって身近でありながら日本や世界とのつながりも感じられ、かつ自然や産業等の地理的要因が関係した地域社会の形成についても理解できるもの、すなわち地理歴史の各科目の学びの結びつきを生徒が実感できる資料が必要となる。さらに教科を横断し、例えば藍産業の発展や藍の価値を考察するにあたり、理科や芸術等の他分野の資料も有効である。学校の図書室や校外の図書館・資料館等の資料も含めて、多様な資料を収集することで学習の深化を促すことが可能となる。それぞれの資料が考察の手がかりや仮説の裏付けとなることに気付かせることにより、生徒の学習意欲を一層向上させ、幅広い視点から思考を組み立てる力を習得させたい。

<指導観>

身近な題材に関連した具体的な数値や産物、地図といった生徒が関心を持ちやすい資料の読み取りからはじめ、段階を経て体験しながら学ばせることで、資料読解に対する難解なイメージの払拭を図る。そして、多様な資料に触れて歴史的な見方・考え方がよく働くように促しながら、藍産業の推移や他地域・他国との関係性、現在とのつながり、さらに本単元の基軸となる問い（「徳島の変化」）について考察させる。こうした自己の研究に必要な資料や先行研究を収集し、それらを比較したり批判的な視点も含めて考察したりする能力は、文系・理系を問わず全ての生徒に身に付けさせたい能力と考えられる。本単元では、一連の活動を通じて、生徒が思考の組み立て方を学び、答えを導いていく達成感を実感させる指導を重視した。

7 単元の目標

- ・徳島の事例を基に、地域と日本や世界の歴史の関連性について振り返り、次の学習とのつながりを見いだそうとする。
- ・19世紀末からの徳島の藍産業や物流の仕組みの変化に着目して、徳島の歴史と日本及び世界の歴史との関連性について考察し、表現する。
- ・自身の課題を踏まえ、必要な資料を収集、選択し、読み取った内容をまとめる。
- ・19世紀末から徳島の藍産業の発展や地域の状況の変容について、日本や世界の変化と結びついていることを理解する。

8 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
・徳島の事例を基に、地域と世界や世界の歴史とのつながりを見出そうとしている。	・19世紀末からの徳島の藍産業や物流の仕組みの変化に着目し、徳島の歴史と日本及び世界の歴史との関連性について考察し、表現している。	・自身の課題を踏まえ、必要な資料を収集、選択し、読み取った内容をまとめている。	・19世紀末からの徳島の藍産業の発展や地域の状況の変容について、日本や世界の変化と結びついていることを理解している。

9 指導計画 単元名 歴史の扉を開けよう 全6時間

第1時 「問い」への「答え」を導くのに必要なのは、どのような資料か

【資料活用の技能】 【思考・判断・表現】

第2時 資料に触れよう 【資料活用の技能】 【思考・判断・表現】

第3時 情報を共有しよう 【関心・意欲・態度】 【思考・判断・表現】

第4時 デジタル資料を活用して、地域の今昔を体験しよう 【資料活用の技能】 【思考・判断・表現】 (本時)

第5時 「問い」に対するあなたの「答え」を出そう 【思考・判断・表現】 【知識・理解】

第6時 他者が述べる「答え」を比較しよう 【資料活用の技能】

基軸となる問い：19世紀末から徳島にはどのような変化が起こったのか。それはなぜか。

10 本時の指導目標

- ・「今昔マップ」等のソフトを使って徳島の地形の変遷や吉野川の変化、交通網の特徴を読み取りまとめる。
【資料の活用技能】
- ・各グループの発表を吟味し、さらなる課題を見つけ、解決のための地理的な視点の必要性も意識しながら、基軸となる問いの解決に向けて考察する。
【思考・判断・表現】

11 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における具体的な評価規準	評価方法
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習の過程を振り返る。 発表の仕方について確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 基軸となる問いを確認し、その解決のために分担を決めてレポートを作成してきたことを確認する。 MetaMoJiを用いた発表のポイントを確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 各グループで考察したりまとめたりした内容を整理し、タブレット端末を用いた発表の手順を習得している。 	
展開 1 20分	<ul style="list-style-type: none"> 基軸となる問いの解決に向けて各グループで作成したレポートについて、タブレット端末上でMetaMoJiを活用しながらグループごとに発表する。(協働学習) 	<ul style="list-style-type: none"> 発表を聞く相手が理解しやすい伝え方や見せ方の工夫を促す。 発表を聞く生徒には適宜メモをとらせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 収集した資料を活用し、グループの課題について考察したことを説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレット画面 ワークシート
展開 2 20分	<ul style="list-style-type: none"> 各グループが発表した内容を踏まえ、さらに探究すべき事柄を考える。 タブレット端末上で「今昔マップ」等を利用し、気候や地形(吉野川)、陸路や水路の交通網について調べる。(個別学習) 各自が読み取ったことをMetaMoJiを使ってグループで共有し、基軸となる問いの解決につながる内容がないか考察する。(協働学習) 	<ul style="list-style-type: none"> 一次資料にあたってみること、地理的な視点から考えることの重要性に気づかせる。 藍の栽培に関する内容(気候、吉野川との関係等)や江戸時代の藍の流通に関する内容(陸路、水路の交通網について)を現在と明治時代初期の徳島県の地図から読み取り、MetaMoJiに打ち込ませる。 問いの解決につながる内容は、グループ発表の裏付けとなる内容でもよいことを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 「今昔マップ」等を利用して徳島の地形や交通網の特徴を読み取り、まとめている。 【資料の活用技能】 集まった内容を吟味し、基軸となる問いの解決に向けて考察している。 【思考・判断・表現】 	<ul style="list-style-type: none"> タブレット画面 ワークシート
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> 本時のまとめと次回の予告を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の内容を踏まえ、次回は各グループ発表をもとに、各自が基軸となる問いに対する答えを導き出すことを予告する。 	<ul style="list-style-type: none"> 次回への意欲を持っている。 	